

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 角井麻旗

作成日 2024.3.12

【責任】

薬学部薬学科に所属し、専門である臨床系薬学を中心とした教育活動を行っている。主な教育活動は、実習科目である臨床薬学実習Ⅳ（在宅医療）や臨床薬学実習Ⅴ（来局者対応）の担当、試験問題のブラッシュアップ、次年度入学する新1年生の担任、卒業研究グループでの学生指導である。次年度からは地域医療薬学の講義および自由科目セミナーも担当する予定である。

【理念】

学生には、医療現場において多職種から必要とされる薬剤師になってほしいと考えている。今や、薬剤師は薬局の中で仕事をしていけばよいという時代ではなくなった。医療従事者の一員として医師や看護師、理学療法士など多職種とともに薬局の外に出て業務を行うことを、国からも社会からも求められている。また、今後AIやロボット技術の進歩により、単純な調剤業務については彼らが担えるようになると予想されている。これらのことから、人間である薬剤師の存在意義として、人と人とのつながり、すなわち多職種との協働や、患者をはじめ様々な人とのコミュニケーションを重視する必要がある。

様々な人とつながることができる薬剤師になるためには、コミュニケーションの能力はもちろんであるが、薬剤師としての専門性である、薬についての知識を正しく身に付け、場面に合わせて応用する力が必要である。また、基本的な社会規範やマナー、ルールを身に付け、人から信頼されることも必要である。

そのため、学生が大学在学中にこれらの能力を身に付けられるような教育を行いたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するため、学生が「講義内容を理解する」、「学んだことを実践・応用する」、「コミュニケーション能力が向上する」、「人として信頼される」ことを方針に教育を行っている。

「講義内容を理解する」

- ・常に最新の情報を学生に伝えるため、講義では教科書を使わず、自作のスライドを用いて説明する。
- ・スライドには、重要な部分にアンダーラインを引いたり、文字の太さや色を変えるなどして、学生にとって見やすくわかりやすいものになるように工夫する。
- ・説明の言葉遣いや内容についても、学生に伝わりやすくなるように考え、練習する。
- ・学生が講義の内容を理解できているのかを、学生全体の顔を見ながら理解度を確認したり、講義中に学生に質問して答えてもらうなどして確認する。
- ・学生からの質問に対しては、理解できるまで丁寧に対応する。

「学んだことを実践・応用する」

- ・医療の現場においても、患者をよく観察し、得られた情報と自身の知識を照らし合わせて評価し、判断することが求められる。そのため、ロールプレイ形式のコミュニケーション実習においては、相手をよく観察して評価を行うように指導する。
- ・ロールプレイの実習で実技がうまくできていない学生に対しては、自身の調剤薬局勤務の経験を活かし、事例を交えて具体的にアドバイスを行う。
- ・身につけた知識を応用できるようにするため、講義や実習で扱った症例だけでなく、自

ら学ぶ意欲がわくような課題を提示する。

「コミュニケーション能力が向上する」

- ・コミュニケーション能力は、一朝一夕に上達するものではないため、普段の講義や実習での学生とのコミュニケーションを大切に行うことで、上達を図る。
- ・講義や実習では、言葉によるコミュニケーションだけでなく、表情や身振りなどの非言語的コミュニケーションも取り入れるようにする。
- ・講義や実習が終わった後に、学生が話しかけやすい環境や雰囲気を作り、話しに来た学生の話をしっかり聞くことを心がける。

「人として信頼される」

- ・学生が人として信頼される人間になってもらうためには、教員自身が手本となって社会規範を守り、学生から信頼される存在になる必要があると考える。
- ・講義の開始時間や終了時間など、時間を厳守する。
- ・挨拶を行う、話すときは相手の顔を見て行うなど、礼儀やマナーとして基本的なところも欠かさず行う。
- ・学生を子ども扱いせず、敬意をもって接する。
- ・直接質問に来る学生だけでなく、メールでの問い合わせに対しても、丁寧に対応する。
- ・自分が担任を務める学生やゼミ生の指導については、個別に面談したりディスカッションをする機会もあるため、学生が話しやすい環境を整えたい。学生の話をよく聞き、問題点や解決法を上からの目線でアドバイスするのではなく、学生と一緒に解決策を考えるようにする。

【成果・評価】

- ・実習での事前講義を学部 FD の先生方に見学していただいた評価として、スライドの見やすさが上がった点、話が聞き取りやすかった点について高評価をいただいた。
- ・OSCE の課題の中で、実習で自分が担当していた区分の課題については、全員合格した。

【目標】

- ・多職種と協働し、医療の現場で 10 年先でも必要とされ続ける薬剤師を輩出する（2035 年）。
- ・ロボットや AI に負けない、人間として他者とつながれる薬剤師を輩出する（2030 年）。
- ・薬剤師国家試験の合格率を上昇させる（2026 年 3 月）
- ・講義に対する学生からのアンケートで、「講義がわかりやすかった」との評価をもらえるようにする（2025 年 3 月）